

- 日野自動車・いすゞ自動車、「レインボー」・「エルガ」等計6車種のバスの中扉出入口に設置してある反転式スロープ板に不具合があるとしてリコール
15年10月12日～18年8月7日に生産した3893台
スロープ板の取っ手の部品寸法が不適切だったことが原因。取っ手を操作した際、取っ手が突出するものがあり、乗員がつまずいて転倒する恐れがある。
- 日野自動車、「プロフィア」の原動機(ロッカサポート)に不具合があるとしてリコール 17年6月6日～18年8月19日に生産した1万555台
原動機の動弁機構において、ロッカサポート部の給油穴位置が不適切な為、油路の隙間が大きくなることによりヘッドカバー内に必要以上のオイルが滞留し、プロバイガスの通路を経由して燃焼室にオイルが廻り込むことがある。そのためオイルの潤滑不良でエンジンが焼き付き、最悪の場合、エンジンが破損する恐れがある。
- 日産自動車、「エルグランド」「シベリアン」の燃料計に不具合があるとしてリコール 04年7月30日～07年10月9日に生産した8万0141台
燃料計回路が不適切な為、回路内の抵抗素子の発熱や計器内の照明などの熱により、メータ内の基板が熱膨張を繰り返し、回路が断線することがある。その為、燃料計の指示値が高くなり、燃料がなくなったことに気づかず、最悪の場合、走行不能となる恐れがある。
- 三菱自動車、「アウトランダーPHEV」のエアフローセンサーに不具合があるとしてリコール 13年1月17日～14年2月3日に生産した1万1413台
エアフローセンサーの硫化腐食耐性の評価が不十分な為、吸気系ゴムホースから発生した硫黄ガスにより、内部の抵抗が腐食し断線することがある。その為、EVシステム警告灯が点灯し、フェールセーフにより走行出力が制限され、さらにエンジンが始動しない恐れがある。エンジンが始動しない場合、充電が行われない為、そのまま走行を続けると、バッテリー残量が無くなり、走行不能となる恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「C200」等計14車種の横滑り防止装置(ESP)に不具合があるとしてリコール 18年7月20日～12月10日に生産した1965台
ESPコントロールユニットの制御プログラムが不適切な為、エンジン始動後にESPが起動しないことがある。その為、ESPが起動しない場合、電動パーキングブレーキが解除できない為、走行できない恐れがある。
- ボルボ・カー・ジャパン、「V40」等ディーゼルモデル6車種の燃料ホースに不具合があるとしてリコール 15年6月16日～16年7月8日に生産した8252台
ディーゼルエンジンの燃料ホースについて、製造機械の設定が不適切な為、ホース内部に亀裂が発生するものがある。その為、燃料の圧力により亀裂が進行し、最悪の場合、燃料漏れの恐れがある。
- ボルボ・カー・ジャパン、「XC60」の電動テールゲートに不具合があるとしてリコール 17年7月12日～18年12月14日に生産した3244台
電動テールゲートのプリテンションスプリングのアウトチューブを固定しているクリップの強度不足が原因。氷結等によりアウトチューブの作動が妨げされた際にクリップが破損。アウトチューブの位置がずれ、プリテンションスプリングが折損し、最悪の場合、スプリングが飛散して負傷する恐れがある。
- 日野自動車、「プロフィア」の車速センサに不具合があるとしてリコール 10年6月9日～17年5月31日に生産した5万5731台
電動伝達装置に組み込まれている車速センサに不具合が発覚、警告灯が点灯し、速度計が指示不良となる恐れがある。その原因は、車速センサ内部基板部のハンダ量不足および、外部磁力に対する検討不足。ハンダに亀裂が発生して一時的にハンダ部が導通不良となったり、鉄くずを積載するための電磁石等で動力伝達装置が一時的に磁化するとセンサ内部の磁界が乱れ、車速センサが出力できなくなる可能性がある。
- スズキ、「スペーシア」「クロスビー」・マツダOEM「フレアワゴン」の車載通信コントローラに不具合があるとしてリコール
車載通信コントローラの制御プログラムに不具合が発覚。イグニッションスイッチをオフにした際にコントローラの通信機能が停止することがあり、外部故障診断機使用時に故障データを読み出せない恐れがある。又、イグニッションをオフにしてもコントローラに待機電流が流れ続けるため、車両を使用せずに数日間駐車した場合、バッテリーが上がり、エンジンが始動できなくなる恐れがある。
17年11月20日～18年3月2日に生産した4万94
- 三菱ふそうトラック・バス、「エアロエース」・UDトラック「スペースアローA」等計4車種のフロントドアガラスヒーターに不具合があるとしてリコール
07年9月4日～19年2月20日に生産した7120台
オプション設定されているフロントドアガラスヒーターで、回路に使用しているヒューズ及び配線。ヒューズについては、選定が不適切な為、結線部の温度上昇によりヒューズホルダーが溶損することがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、ヒューズの結線部が露出して短絡が生じ、最悪の場合、火災に至る恐れがある。又、配線については、固定方法が不適切な為、ドア開閉時にアーム部(上側水平バー)の配線に局部的な曲げが生じるものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、ドア開閉に伴って配線が繰り返し曲げられることで断線し、発煙が生じる恐れがある。
- トヨタ自動車、レクサス「LS」「IS」の計5車種が装着するランフラットタイヤに不具合があるとしてリコール
ホイールの組付工程が不適切な為、ランフラットタイヤのサイドウォール内面補強層に亀裂が発生するものがあることが発覚。その為、そのまま使用を続けると、異音や振動が発生し、最悪の場合、トレッドの一部が剥がれ、走行安定性を損なう恐れがある。 17年8月23日～18年7月20日に生産した1万3391台
- スバル、「インプレッサ」「フォレスタ」のブレーキランプスイッチに不具合があるとしてリコール 08年9月19日～17年3月29日に生産した30万6728台
制動灯スイッチの接点方式が不適切だった為、車内清掃用品や化粧品類などから揮発するシリコンガスの影響で接点部に絶縁被膜が生じられ導通不良となることがあり、ブレーキランプが点灯しなくなり、横滑り防止装置の警告灯点灯やエンジン始動不良になる恐れがある。